

2024年度優秀3R推進活動発表会

使用済みガス機器の資源再利用（リサイクル）の推進

2024年6月10日

東京ガス横浜中央エネルギー株式会社

目次

1. 発表の要旨
2. 会社概要
3. 使用済みガス機器※のリサイクル事業について
4. トピックス
5. おわりに

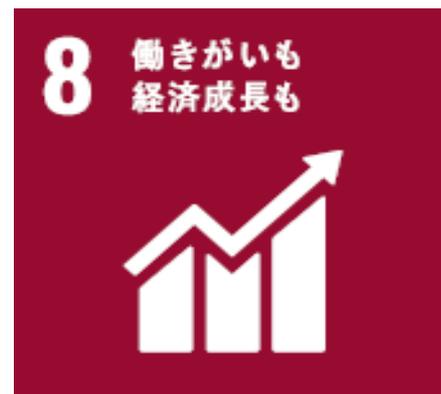
※本発表でのガス機器：ガス給湯器

1. 発表の要旨

- ・ガス機器販売業者が自ら回収・解体・分別を行うリサイクル事業を初めてビジネス化
- ・手作業による解体のメリットを活かし、資源循環の推進と環境負荷の低減を両立
- SDGs目標12「つくる責任、使う責任」に貢献
- ・通常業務が難しい社員の雇用の場を確保し、障がい者が作業可能な仕組みを構築
- ・前例のない事業をメンバーが創意工夫・試行錯誤を重ねて課題を解決
- SDGs目標8「働きがいも、経済成長も」に貢献



SDGs GOAL



2. 会社概要



会社名	東京ガス横浜中央エネルギー株式会社
代表者	代表取締役社長 原文比古
本社	神奈川県横浜市西区伊勢町3-148
設立	平成20年(2008年)10月1日
従業員数	780名 (2024年4月時点)
資本金	7000万円

5つのライフバルの運営

東京ガスの地域担当窓口として、地域のお客さまに対し、ガス設備定期保安点検、ガス機器修理などガス設備やお住まいに関する業務・サービスを提供。



- ① 東京ガスライフバル横浜中央【西区・神奈川区】
- ② 東京ガスライフバル横浜港北【港北区】
- ③ 東京ガスライフバル横浜北【都筑区・青葉区】
- ④ 東京ガスライフバル横浜西【旭区・瀬谷区】
- ⑤ 東京ガスライフバル横浜鶴見【鶴見区】



事業内容

ガス・電気

- 都市ガスのご利用開始・ご利用停止作業
- ガスメーター検針作業
- ガス設備定期保安点検（4年に1回）
- ガス機器修理
- ガス機器販売・工事
- 東京ガスの電気の受付

ガス利用開始・停止
検針



点検



電気



修理
販売



リフォーム



水まわり

- 水まわり修理
- 水栓販売



リフォーム

水回り設備（キッチン・お風呂・トイレなど）、内装・間取り変更、外構工事

設備工事

ガス工事、ガス温水床暖房工事、給排水衛生工事、住宅設備機器取付工事など

経営理念

- ・お客さまに信頼・感謝されるサービスを提供し、強い絆を持ち続けます。
- ・1人ひとりが能力・意欲・創意を発揮し、互いを尊重しあう風土をつくり、社員の幸福を追求します。
- ・総合エネルギー企業として地球環境に配慮した都市づくりに積極的に貢献し、お客さまの快適で安心な暮らしを創造します。
- ・絶えざる挑戦により、成長と安定経営を実現し、業界の範たる企業を目指します。



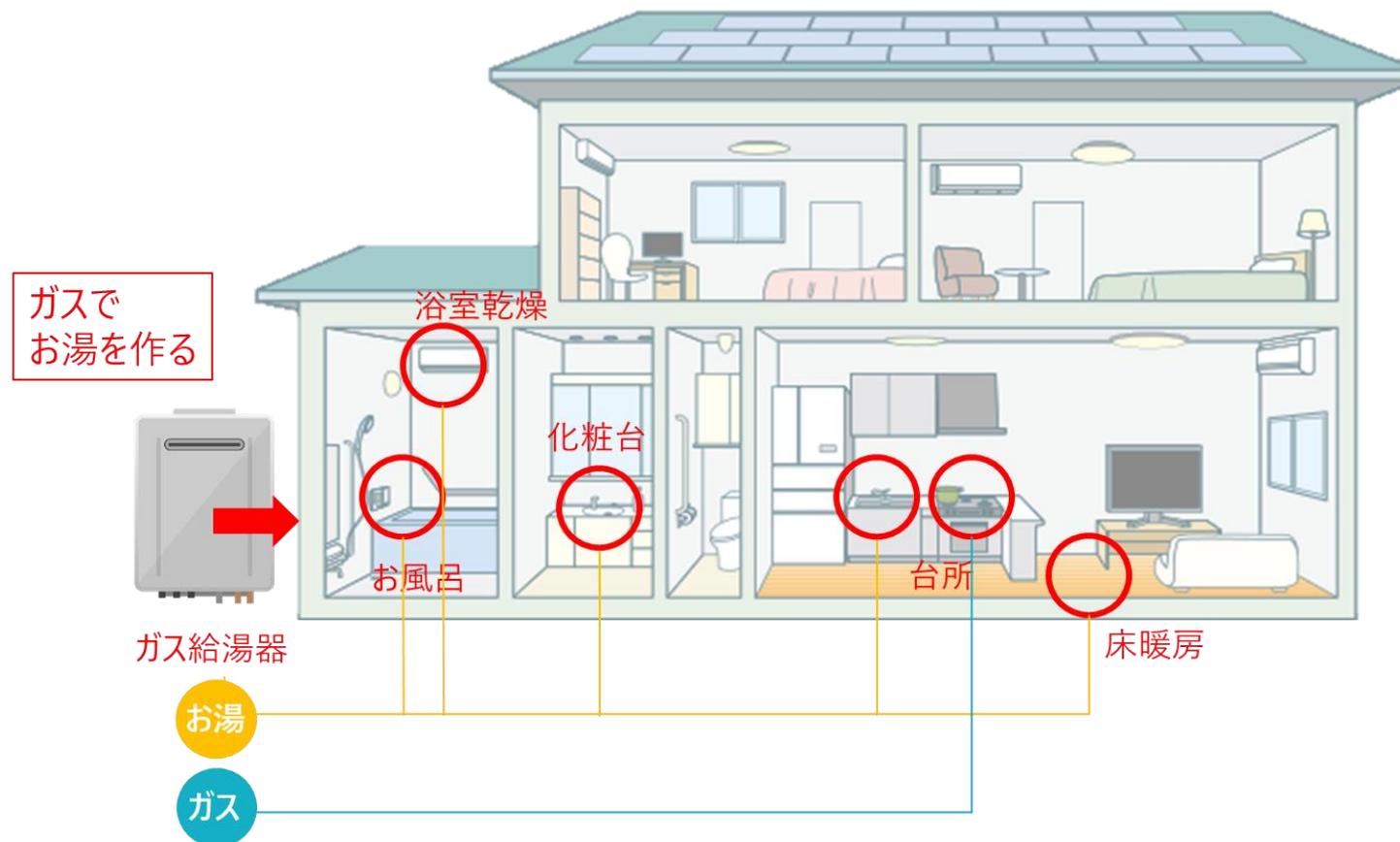
弊社のサステナビリティ 2030年経営ビジョン

横浜に心地よさを地球にやさしさを

住まい・建物まわりの設備・サービスの提供などの事業活動を通して地球環境の維持に貢献するだけでなく、持続可能な社会の実現に向けた取組みを進めてまいります。

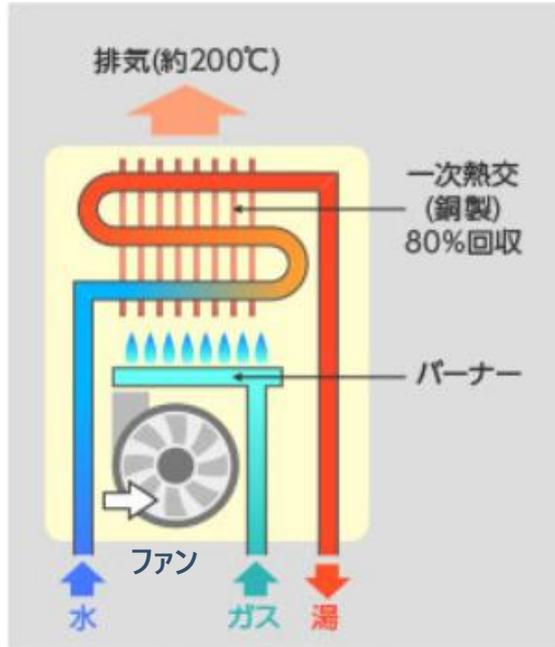
3. 使用済みガス給湯器のリサイクル事業

(1) 暮らしにおけるガス給湯器の役割



ガス給湯器：暮らしで欠かせないお湯を作り出すガス機器

(2) ガス給湯器の原理と構造



出典：日本ガス協会HP

ガス給湯器の原理



給湯器の内部写真

- ①原理：都市ガスを燃焼させた熱で水をお湯に温める
- ②構造：バーナー、ファン、熱交換器、配管、切替弁、センサー、安全装置、制御基板等
- ③耐用年数：10年程度

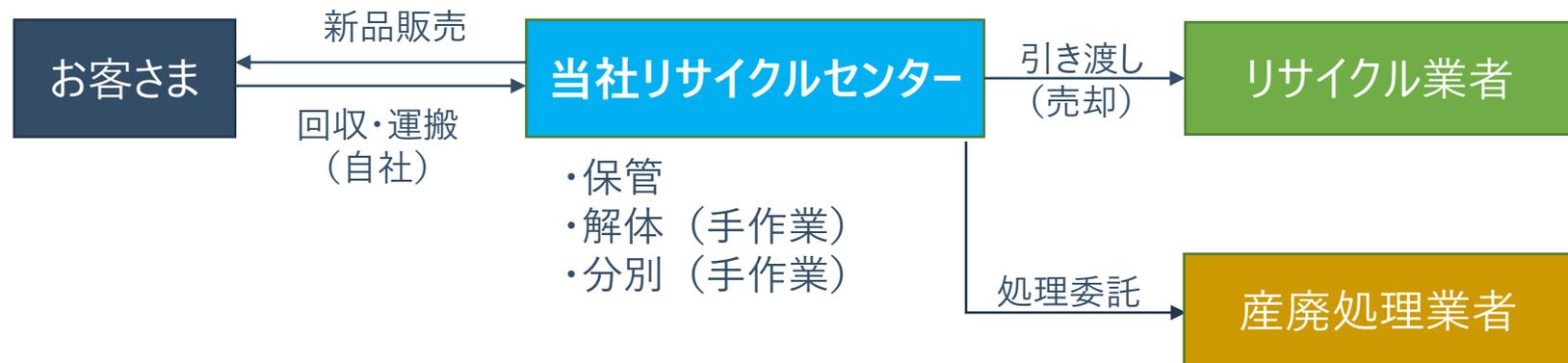
(3) 使用済みガス給湯器のリサイクル

①回収方法

お客さまが買替の時に使用済みガス給湯器を自ら回収（自社運搬）

②リサイクル方法

・当社が設置したリサイクルセンターで自ら手作業で解体・分別



③ガス給湯器でリサイクルできるもの

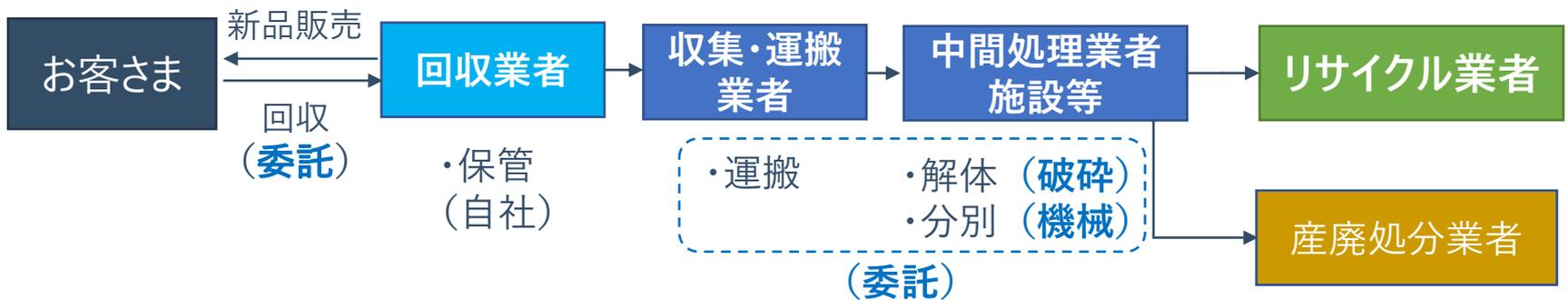
- ・解体した部品を銅、アルミ、ステンレス、真鍮等、16品目に分別
- ・分別品をリサイクル業者に引き渡し、リサイクル市場にて循環・再利用

< 当社のリサイクル方法 >



< 参考 >

通常のリサイクルの例 (産業廃棄物として処理を委託)



(4) リサイクルセンターの概要

①設備

- ・既存倉庫の一部をリサイクル工場に活用
- ・給湯器置場、分別品の保管倉庫を増設

②体制 (2024年度)

- ・社員7名 (うち、障がい者認定4名)
- ・作業時間 8:45~17:30 (7時間45分)



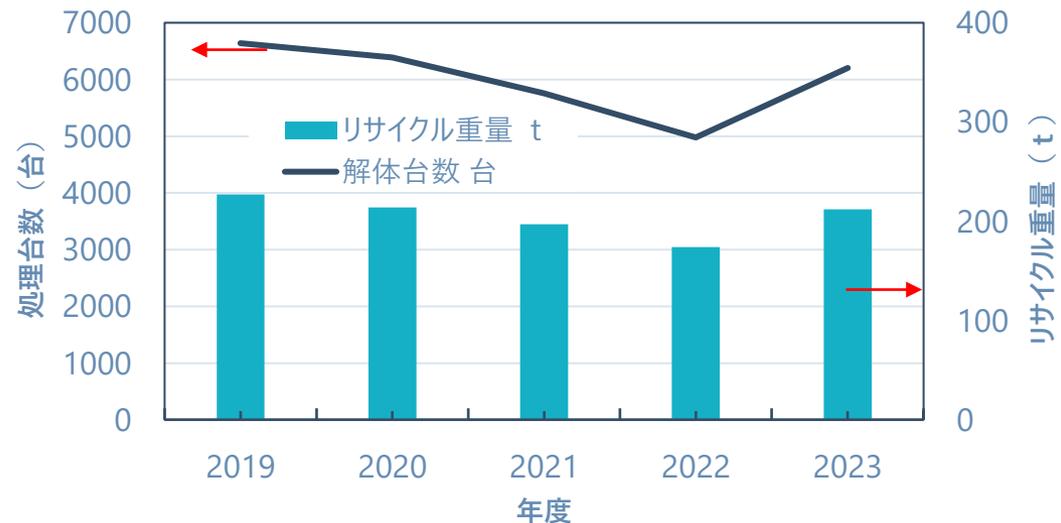
③事業開始

2012年7月

④稼働実績 (2023年度実績)

解体台数 : 6,203台

リサイクル重量 : 212トン



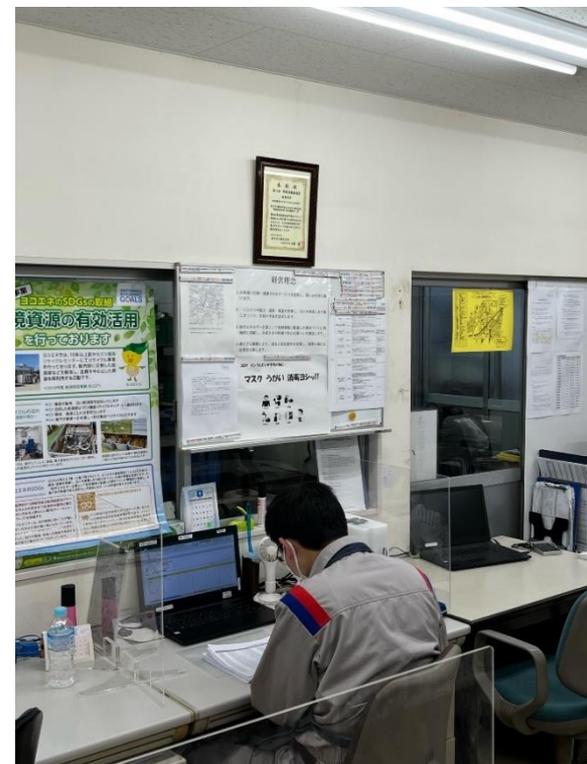
⑤解体作業の様子



作業台



作業状況



事務室

- ・社員一人がガス給湯器1台を受け持ち、最後まで責任をもって解体・分別
- ・一人3～4台／日のペースで解体
- ・粉じん対策：集じんドラフトを設置
- ・熱中症対策：空調、水分補給（会社支給）、健康確認
- ・事務室にてミーティング・休憩を実施

⑥分別の状況



アルミ合金



真鍮製部品（バルブ、継ぎ手等）



銅製部品（熱交換器等）

・毎週、リサイクル業者が分別品を回収

4. トピックス

(1) 事業検討のきっかけ

- ・2012年当時、お客様とのコミュニケーション、車両運転等の通常業務が難しい社員が個人でできる業務（雇用）の確保として検討。
- ・作業人員の確保、障がい者雇用率向上のため社外募集も並行して検討。



(2) 前例のない事業への挑戦

- ・ガス機器販売業者で前例なし。
- ・リサイクル業者からOJT（実践教育）を受け、構造や解体手順・分別の仕方等を習得（事業開始時の人員は2名）
- ・ニッパー、ドライバー等のDIY工具で出来る作業手順を検討。
- ・給湯器はメーカー・型式によって構造・部品が異なるため、分担制（流れ作業）では効率が悪くなる
→社員が1台毎に解体手順を判断し、着実に作業を実施。



(3) 目標設定

- ・個人の力量に応じた目標を設定し、目標達成に向けて協働している。
- ・全員が目標を達成し、更なるレベルアップを目指している。



(4) 品質向上・スキルアップ

- ・解体不良を発見した場合、全員で確認して再発を防止。
- ・個人スキルのレベルアップのため、「チャレンジ期間」（解体レベルの高い人のスキルに近づけるトライアル期間）を設定し、結果を共有してお互いのスキルアップを図っている。



(5) コミュニケーションの充実

- ・作業効率・品質向上・事業収益すべてに寄与する重要ファクター。
- ・毎月、全体ミーティングを開催し、コミュニケーションを取って問題解決に繋げている。
- ・スキルが違う個人を認め合い、共に働く仲間・チームとして助け合っている。



5. おわりに

弊社のサステナビリティ推進について

(1) 2030経営ビジョンに向けた取り組み

- ・2030年SDGsの達成、弊社2030年経営ビジョン「横浜に心地よさを地球にやさしさを」に向け、継続的な自社の事業活動、環境・社会貢献活動を実施。
- ・昨年度より社員によるSDGs推進プロジェクトを開始し、取り組みを実施。

(2) 横浜市SDGs認証制度「Y-SDGs」の認証取得※

- ・2023年3月に「Y-SDGs -standard-」を取得。
- ・会社として事業活動・事業活動外でのSDGs達成に向けた更なる取り組みを推進し、より上位の認証取得（superior、supreme等）に繋げていく。

横浜市SDGs認証制度



(横浜市SDGs認証制度 / 私たち)は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

※「Y-SDGs」：横浜市内の事業者・団体がSDGsに取り組むことを横浜市が認証する制度

ご清聴、ありがとうございました。



ヨコエネ エコリフォームキャラクター
「エコくん」